

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和4年3月29日

事業所名: 平谷こども発達クリニック事業所はぐくみ放課後等デイサービス

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			活動に必要なでないものは置かず、簡素化している。定員におけるスペースは十分に取れている。	
	2	職員の配置数は適切である	○			規定通りの配置数である。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			玄関にはスロープ、階段には手すりを設け、手洗い、トイレも使いやすく設置されている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			目標設定や振り返りは、定期的に話し合いを持って改善に努めている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている			○	次年度の業務改善につなげていこう全員で話し合いを行っている。	昨年5月開所のため、今回初めての評価の実施である。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している			○	今回の評価は事業所のHPで公開する。	昨年5月開所のため今回からの実施である。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	行っていない。	機会があれば行ってきたい。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			毎週金曜日に法人の研修会(ZOOM)に参加している。また、事業所内でも研修を行っている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			アセスメントには児童に関わる職員が全員参加し、内容を分析して上で計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			福井県が発行している「子育てファイルふくいっ子」などを参考にしている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			その都度スタッフで話し合いを持ち、活動内容を考えている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			児童の発達に応じてプログラムを考えているので固定化することはない。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			個別に課題を考え、支援している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している			○	個別の課題は個々に応じて充実を図る。	今後は集団活動について個々のニーズを踏まえた内容を考え実施していきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			支援開始前には必ずスタッフで打ち合わせを行ない、全体支援や利用者個々の支援について確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			スタッフで話し合いながら、利用者個々の記録を行ない、支援の振り返りをしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			毎回、利用者個人の記録を行い、関わった職員で検証している。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			6か月ごとにモニタリングを行い、個別支援計画を見直しをしている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている			○	ガイドラインを参考に活動を組み立てている。	基本活動を複数組み合わせる支援ができているか、継続して見直しをしている。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			担当している職員や責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている			○	今年度は特に行っていない。	学校との連絡を随時行っていく。

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	—	—	—	受け入れていない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている			○	今年度は対象になる利用者がいなかった。	来年度は対象の利用者がいるので保護者を通じて情報交換を行っていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	—	—	—	対象の利用者がいないため行っていない。	対象の利用者があれば情報の提供等をしていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			専門機関のzoomによる研修会に参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○	新型コロナウイルス感染症の影響で交流ができなかった。	新型コロナウイルス感染症収束後は交流する機会を設けていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			○	新型コロナウイルス感染症の影響が会議の案内が来なかった。	案内があれば積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時に状況を伝え、共通理解を図っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○	保護者の相談には随時応じ、アドバイス等を行っている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に丁寧に説明をしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			モニタリングで子育ての悩みなどの相談に応じ、助言や支援を行っている。それ以外にも随時保護者の申し入れに応じている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○	新型コロナウイルス感染症の影響で開催することができなかった。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			申し入れがあれば、迅速に随時相談を受け入れている。	苦情については事業所に苦情受付の窓口を設置し、対応する体制を整えている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している			○	会報の発行はできていない。活動予定や連絡事項は随時個別にメールで行っている。	必要に応じて実施していきたい。
	35	個人情報に十分注意している	○			個人のファイルは鍵の付いたロッカーに保管している。一斉メールは行っていない。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			視覚化を行ったり、文章を簡潔にしたりして、分かりやすく伝えている。	
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○	新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていない。	新型コロナウイルス感染症の状況を見据えながら、地域等との交流を図っていきたい。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している			○	マニュアルは策定している。職員は周知している。発生を想定した職員研修を行っている。	マニュアルは揭示し、周知に努めている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている			○	水害についてのハザードマップや避難経路の提示をしている。年間計画を作成している。	定期的に避難、救出を想定した訓練を行ってきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			虐待防止の研修は事業所内で行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	—	—	—	「身体拘束等の適正化のための指針」を作成している。	
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	—	—	—	食事の提供は行っていない。		
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している			○	今だヒヤリハットの事案は発生していない。	今後、発生に応じて作成していきたい。	